

イタリアの美術作品を作者の人生・思想・世界観に基づいて読み解く

美術選修 教授 甲斐 教行

絵画や彫刻に表
されているもの
は何？

西欧の美術作品の意味を正しく理解するには、制作当時の思想・宗教・社会状況を踏まえる必要があります。とくに、作者がどのような人物と接触したか、どのような世界観を抱いていたかが重要です。私は16世紀から今世紀までのイタリアの画家・彫刻家について、その作品体系を包括的に解釈する研究に取り組んできました。

この研究の中で、例えば16世紀の画家バロッチとサンティ・ディ・ティートが、それぞれカプチーノ会およびドミニコ会という異なる修道会に接近し、前者は祈りを重視する説教師の思想に基づいて、後者は慈善活動と観想のバランスを取る教団の姿勢を体現して、独自の図像を描いたことを明らかにしました。

過去の芸術家の作品体系を作者の思想に基づいて読み解いていきます。



(図1:左)バロッチ
《聖母子の前で祈
る福音書記者ヨハ
ネ》、ウルビーノ、
マルケ州国立美術
館

(図2:右)サン
ティ・ディ・ティート
《節制》、フィレン
ツェ、ヴィツラ・ス
トロツツィ



各芸術家がどのような思想に基づいて制作したかを考えていきます。

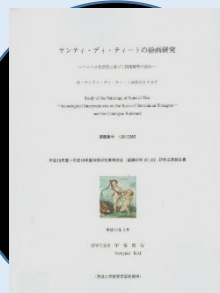
(図1)バロッチ《聖母子の前で祈る福音書記者聖ヨハネ》

(病気で苦しむ画家のため、毒除けの守護聖人ヨハネが聖母に祈っています。病気が軽快した画家はこの絵をカプチーノ修道会に寄贈しました)

(図2)サンティ・ディ・ティート《節制》

(登場人物が、制御を表す馬の轡を示し、水瓶から水がこぼれないよう努めており、慈善と祈りのバランスを取る行為を暗示します)

2001年以降4つの研究で計6回、
文部科学省助成金を受けました！



(写真)サンティ・ディ・ティートに関する研究報告書

16世紀の画家サンティ・ディ・ティート、彫刻家バンディネッリ、19世紀の画家アレッサンドロ・フランキ、20世紀の彫刻家コッラード・ヴィーニの研究で、国から助成金を受けました。

(科学研究費補助金基盤研究C:研究代表者 甲斐教行)

包括的図像解釈の今後の展望

彫刻家バンディネッリとローマ教皇クレメンス七世の友情を掘り下げ、教皇の墓碑に秘められた思想を具体的に読み解きます。

(右:教皇墓碑中の彫刻家の自刻像)

